

# 【こどもと貧困】

こどもの貧困は社会的に非常に重要な課題です。

世界では、おなかいっぱい食事ができないために栄養失調になったり病院に行けず命を落としてしまうこともある子どもたちがいます。

日本のこどもは2015年には0～18歳の7人に1人が相対的貧困状態にあるといわれています。(先進国全体では5人に1人)

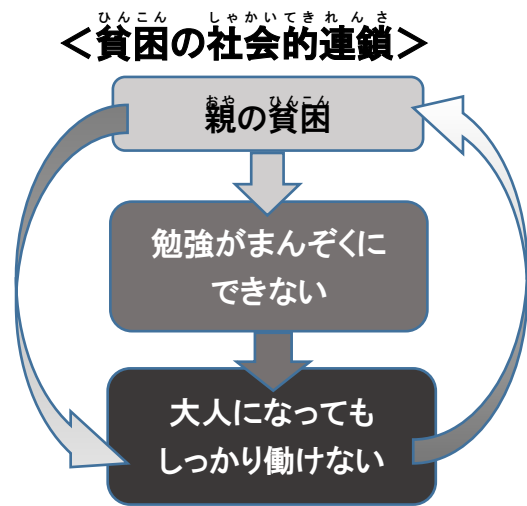
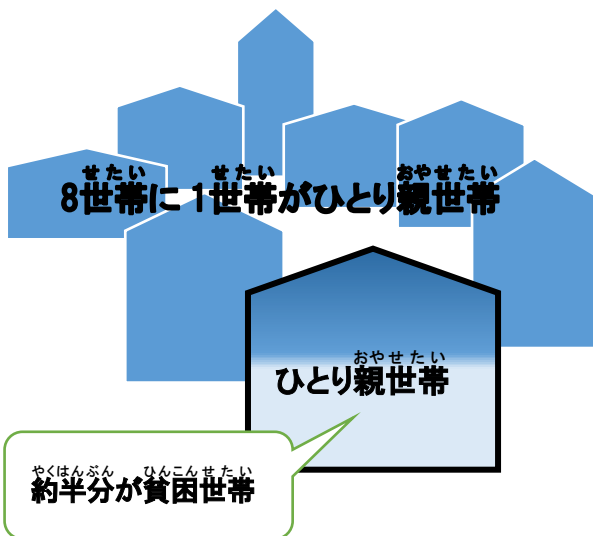
「相対的貧困」とは、親が働けないことで生活が苦しくなって「部屋が狭くて静かなところで勉強できない」「習い事に行かせられない」「家族で旅行に行ったことがない」など、様々な面で不利な状況に置かれてしまう傾向にある状態のことです。

貧困家庭では全体的に進学率が低く中退率は高いという結果が出ています。子どもたちの勉強する機会が失われると、大人になってからの生み出す所得が減り、経済が縮小してしまうかもしれません。貧困による教育格差によって経済格差が生み出されるとみられています。それによって生活保護や失業給付、職業訓練といった国の支出が増えてしまい、めぐりめぐってそのコストを社会全体で負担しなければならなくなり、税金の負担が多くなるか公的サービスの切り下げをしなければならなくなります。

またこの貧困の状態は親から子へ連鎖するということがいわれています。

このような社会経済的背景の格差は子どもの努力(勉強時間)では挽回することが難しいことが明らかになっています。

こどもの貧困の定義としては他に生活保護世帯、児童養護施設、ひとり親家庭、準要保護があります。



私たちひとりひとりが「他人事」ではなく「自分の世界のこと」と考えることが重要です。

例えば寄付やボランティア活動、またこのような実態を知って誰かに話すことで助けることができるかもしれない。関心を持つことが大切ではないでしょうか。

## 参考文献

・社会問題を、知って、支援できる「gooddo」

<https://gooddo.jp/magazine/>

・「日本財団」こどもの貧困対策

[https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/ending\\_child\\_poverty](https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/ending_child_poverty)

